

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
教育に資する取組	1	わん・にゃん倶楽部	ノンフィクション作品を通じての動物愛護	多くの子供達に、これまで自分の著書や講演を通じ、命の尊さを伝え続けてきた、児童文学作家の今西乃子さんのお力をお借りして、命あるもの全てが、生きるために生まれてきたと言える社会の構築を茨城から発信していく。	コロナの感染拡大の状況にもよりますが、石岡市の教育委員会と協議し、石岡市内1ヶ所(小学校1校を選択し、そこの実施を最優先)で、今西乃子さんによる「命の授業」を実施。それに合わせ、今西乃子さんの「小さな命の写真展」を開催。 石岡市には19の公立小学校と5の公立中学校があります。それらの各学校に、今西乃子さんの著書を贈ると同時に、私達からの動物愛護のメッセージを届ける。 石岡市立中央図書館に、小学生用及び中学生用著書を各1冊贈る。 オンラインによる今西乃子さんの「命の授業」を実施。	石岡市内の公立小中学校と図書館に今西乃子さんの著書を寄贈し、本に添えて、今西乃子さんのメッセージを届けることとしました。 令和3年11月30日、石岡市立小桜小学校の校長室にて贈呈式を行い、32冊の書籍及び今西乃子さんからの色紙とメッセージを、石岡市長及び教育長に贈呈。 尚、当日は公益財団法人 日本動物愛護協会の全面ご協力により、小桜小学校の5年生と6年生対象に、石岡市長と教育長ご同席のなか、今西乃子さんの「命の授業」90分を実施。(日本動物愛護協会の田畑理事長も贈呈式及び講演会に同席) * 小学校19校・中学校5校・図書館4館への本の寄贈 小学校寄贈書籍:『捨て犬・未来、しあわせの足あと』 中学校寄贈書籍:『命のものさし:動物の命・人間の命・わたしの命』 図書館寄贈用書籍:『子犬のきららと捨て犬・未来 ゆれるシッポ、ふんじやった』 :『いつかきつと笑顔になれる 捨て犬・未来15歳』
	2	殺処分削減のために知識と愛護精神で活動する組織(ORCK)	動物愛護の関係機関、関係者の連携でゼロ事業の効果を体感できるツールの開発ARG(アニマルレスキューゲーム)の開発と利用	ORCKは、茨城県が目指す犬猫殺処分ゼロを達成するために、ルールに沿ってプレーするだけで、動物保護に関する一定の知識や現状の理解が可能な、ゲーム形式のツールARG(アニマルレスキューゲーム)を開発した。ARGはコミュニケーション型ゲームで、保護活動の経験者や未経験者、またこれからの時代を担う子供たちに、保護活動の必要性やその方法などについて自らが考えて行動出来る人材の育成に繋がれると考えている。ゲームは、問題解決型を適用したワークショップの開催によって、多様な考え方を持つ人々が経験や想像を活かし、希望に満ちた動物との共存を実現出来る事を目指す。また、ゲーム自体も重ねて行う事により、内容が成長していく事も期待出来る。	2020年度までに実施した第3期の事業においては、動物の保護活動を想定して複雑な事象や保護システムを定式化する模擬体験シミュレート を、ワークショップで行う事を目的とした。 ワークショップの参加者が保護活動を疑似体験し、自らが考えて、答えを探索するためのツールとしてARG(アニマルレスキューゲーム)の猫版(初版)を製作した。ARGは保護対象動物カード、イベントカード、資材カード、ロケーションシートから構成されている。事業グループ内での試行を通じてカードの内容や枚数などを調整するなどの改良を行い、より現実に近い状況に設定する事を試みた。 一方で、2020年度の事業予定には、動物保護ボランティア活動体験者、保護活動未経験者、小中学生などを対象に順次ワークショップを開催し、ゲームを通じた啓発活動を行うことが重要な取り組みとしてあげていた。しかし、昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、児童はもちろん一般参加者を対象としたワークショップの開催は難しく、断念せざるを得なかった。2021年4月に茨城県の動物愛護管理行政推進のために 発令された、茨城県動物愛護管理推進計画(第4期)において、(4)災害時の対応と(5)学校教育との連携も課題としてあげられていて、ARGの開発目的とも共通する。そこで今期の事業においては、完成したARGでこの2点に焦点をあてた以下の活動を行う。同時にARGの属性を増やすなど、更なる開発を目指す。 ・既に開催されている「動物ふれあい教室」や「いのちの教室」と併せて、小中学生を対象としたARGの体験会をワークショップとして実施し、将来動物保護活動を担う世代への啓発活動に力をいれる。 ・上記目的のため、学童向けの動物保護活動の現状や意義を説明する資料を整備する。 ・災害時の動物保護活動のありかたを考えるために、ワークショップに災害対応の要素を追加する。 ・現在の現在の属性は猫に限定した仕様で属性は猫に限定した仕様であるため、対象を対象を犬に広げ「犬版ARG」を作成する。	第4期の事業においては、昨年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、児童はもちろん一般参加者を対象としたワークショップの開催は難しく、断念せざるを得なかった。ARGの有用性を、動物の保護活動を想定して、複雑な事象や保護システムを定式化する模擬体験を、ワークショップで行う事を学校へ提案するも、様々な構内のイベントも中止になるなか、コミュニケーション型のイベントの開催は不可能だった。しかしながら、その開催は必要と捉えて、大学生に協力をお願いし、プレイヤーとして、保護活動の疑似体験をして貰った。コロナ禍にあって、授業参加人数の分散をしている関係で、完全なオフライン開催ではなく、オンラインとのハイブリッド体制で行う事にした。そのための打ち合わせも繰り返したが、課題は多い。コミュニケーション型のイベントの中心は、参加者間の意見の交換や相談であることは言うまでもない。また学生にとっては初めての体験であるだけでなく、直接メンターがいない事もプレーの難しさを倍加させた。参加してくれた学生は、殆どが保護活動の未経験者だったため、ARGの趣旨や目的、殺処分ゼロへの取り組みの内容、ゲームの構成やゲームの方法など、更に丁寧な説明が必要となった。そのため、説明用のプレゼンテーションも、未経験者用の内容を追加校正し、理解の確認をとりながら行った。ゲームの仕様や方法などに変更はなく、初体験者の知見を得るいい機会にもなった。 様々な対象者に対して、ARGの有用性とその効果のためのオンラインミーティングは継続したが、実際に保護ボランティアを行っている人々には、オンラインでのワークショップは、課題が多いと実感した。 これからを担う、小中学生などを対象に順次ワークショップを開催し、ゲームに通じた啓発活動を行うことが重要な取り組みとしてあげていて、そのために、既に開催されている「動物ふれあい教室」や「いのちの教室」と併せて、小中学生を対象として、将来、動物保護活動を担う世代への啓発活動に力をいれることや、災害対応の要素を追加することも、残念ながらもまだ達成できなかった。 今年度も、まだまだコロナ禍にあり、社会全体が各会議やイベントが中止になる中、ワークショップや説明会も断念瀕あるを得なかった。グループの打ち合わせも、基本的にオンラインでの開催にしたが、そのための事業の遂行も足踏みとなった。一方、ワークショップの参加協力依頼は、困難な状況のなかオンラインでの説明会を行った。 オフラインの参加者には、マスク着用や入室前の手洗いは勿論、利用する資料も途中で消毒が出来るように、表面にラミネート加工を施した。ゲームテーブルの近くには、エタノールを配して、気になった時に何度でも拭き取れるようにしたことや、参加者の安心・安全の確保に努めた。
その他の取組	3	常総の犬猫殺処分をゼロにする会(JOSOWAN ZERO)	常総市における殺処分ゼロ活動	常総野犬問題が2015年初めに表面化したことにより、茨城県と常総市、そして動物愛護団体の三者により官民連携で構成されたワーキンググループが作られ、殺処分せざるに保護譲渡するという方針が決まりました。この活動に端を発し、2018年6月に常総市によって常総シェルターが開設されたことから「常総の犬猫殺処分をゼロにする会」として活動を開始しました。 以来、常総市で保護された犬猫の殺処分をゼロにし、それを継続するために活動しています。	常総市内で保護された犬猫を茨城県動物指導センターから引き出し、シェルターで飼養し、それらの保護犬猫を譲渡するための活動を継続しています。また、シェルターボランティアや預りボランティアとして活動に参加してもらうことで、動物を愛護する心を育てる拠点としても活動しています。	常総市における殺処分ゼロ活動として、常総市内で保護された犬を県動物指導センターから引き出し、シェルターで飼養し、それらの保護犬を譲渡するために希望者とお見合いを個別に実施し譲渡しました。 コロナウイルス感染防止のため、譲渡会の開催はありませんでした。 また、会に寄せられる野良犬、野良猫、飼育崩壊等の相談に対応し、保護した犬猫については不妊去勢手術の実施や馴らしを行い、譲渡につなげました。
	4	NPO法人 動物愛護を考える茨城県民ネットワーク	譲渡困難犬を譲渡する取り組み	一口に保護犬と言っても、たとえば子犬は病気を持っておらず人馴れも速いため、通常2か月未満で譲渡できる。しかし、人馴れしていない成犬、老犬、障害のある犬といった譲渡困難犬は、譲渡の見込みが無いということで、これまでは殺処分の対象となっていた。従って、殺処分ゼロを目指すには、これらの「譲渡困難犬」を何とかしなくてはならない。本事業の目的は、これらの譲渡困難犬をセンターから引き出し、なんとか譲渡する道筋をつけることである。特に人馴れしていない保護犬や噛み癖のある保護犬は、逃走や咬傷事故の可能性が高く、そのままでは譲渡は難しいため、トレーニングの必要がある。	1. 茨城県動物指導センター(以下、センター)から従来殺処分となっていた引き取り手の無い保護成犬を引き出し、CAPINシェルターに收容する。今年度は百頭以上を目標とする。 2. まず人馴れしていない保護犬については、CAPINシェルターにおいてベテランのボランティアが、毎日の散歩や世話を通じて人間との信頼関係を構築する。これに加えて、人馴れしていない成犬の馴らしについて長い経験を持つドッグトレーナーを招いてトレーニングを行う。今年度は5回程度を予定している。 3. 老犬や障害のある犬は、譲渡先が見つかりにくい。しかし、一方で、老犬や障害のある犬は激しく動かないという“利点”もある。この利点を生かして、たとえば年配の里親さん等を見つかることが可能なはずである。そこで、県内で広く里親を探すために、現在は主につくば周辺で開催している譲渡会に加えて、SNSを利用した里親募集を通じて、県内で広く里親を募集する。これにより、潜在的な里親の発掘を目指す。	茨城県動物指導センター(以下、センター)から従来殺処分となっていた引き取り手の無い保護成犬を引き出し、CAPINシェルターに收容する。まず人馴れしていない保護犬については、CAPINシェルターにおいてベテランのボランティアが、毎日の散歩や世話を通じて人間との信頼関係を構築する。これに加えて、人馴れしていない成犬の馴らしについて長い経験を持つドッグトレーナーを招いてトレーニングを行う。つくば周辺で開催している譲渡会に加えて、SNSを利用した里親募集を通じて、県内で広く里親を募集する。 今年度は、 ・一般に人馴れしていない犬のトレーニング教室を合計10回実施した。 実施日:6月21日、7月14日、8月9日、9月15日、10月16日、11月6日、1月15日、2月13日、3月21日 ・譲渡会は新型コロナの影響でほとんど実施できなかったため、主としてブログ上で犬の照会と里親募集を行った。
	5	Team.ホーリーキャット	みんなで考える猫達との共生	茨城県はTNR活動や地域猫活動が未だ県内全域には浸透していない。飼い主の居ない猫が産んだ子猫は所かまわず捨てられるのが現状です。命を守る観点から猫との共生を考える上で保護、譲渡活動を活発にしていける必要があります。	月に2回の猫の譲渡会開催を広く告知を行い県内全域から里親希望者を募集します。その会場で猫との交わり方を広い範囲にわたり啓発、推進しています。	飼い主のいない猫、又は飼い猫であっても、生まれた子猫は、所かまわず捨てられる現状です。命を守る観点から猫との共生を考え、みだりに命を殺生することなく、猫の保護譲渡活動を通して、啓発を行うべく、譲渡会、里親会等を開催し、その会場で、猫との交わり方や飼い方を指導、啓発、愛護精神の育成を推進しています。 ※その活動に伴い会場設営に必要な備品を購入致しました。

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
1	阿見町動物愛護協議会	譲渡会事業・地域猫事業・一時預かりボランティア事業	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 町民に向けて適正飼養に関する正しい知識や動物愛護意識の醸成を図る。</p> <p>2 猫に対する取組 (1)地域猫活動 野良猫による騒音、悪臭などの被害が多いため対策として、地域猫活動を実施している。 (2)保護犬猫の譲渡 町内で保護した猫について、譲渡を推進する。</p> <p>3 その他の取組 なし</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 町広報、譲渡会、犬のしつけ教室等でのチラシ配布</p> <p>2 猫に対する取組 (1)譲渡会 ・適宜開催とする。(天候や気温・譲渡対象犬猫の頭数により態度を決定する) (2)会員活動 ・獣医師 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ・町動物愛護会員 飼い主のいない犬猫の一時保護等 (3)地域猫事業 ・飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成 ・県の補助事業活用 (4)一時預かりボランティア事業 ・一時預かり費用の助成(ミルク、えさ、トイレ用砂及びペットシート)</p> <p>3 その他の取組 なし</p>	<p>【動物愛護に関する啓発等の取組】 <目的> 町民に向けて適正飼養に関する正しい知識や動物愛護意識の醸成を図る。 <内容> ・町広報、譲渡会、犬のしつけ教室等でのチラシ配布 <実績> 広報あみ9月号に掲載 コロナの影響で譲渡会、犬のしつけ教室等は行わなかった</p> <p>【犬猫に対する取組】 <目的> (1)地域猫活動 野良猫による騒音、悪臭などの被害が多いため対策として、地域猫活動を実施している。 (2)保護犬猫の譲渡 町内で保護した猫について、譲渡を推進する。 <内容> (1)譲渡会 ・適宜開催とする。(天候や気温・譲渡対象犬猫の頭数により態度を決定する) (2)会員活動 ・獣医師 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ・町動物愛護会員 飼い主のいない犬猫の一時保護等 (3)地域猫事業 ・飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成 ・県の補助事業活用 (4)一時預かりボランティア事業 ・一時預かり費用の助成(ミルク、えさ、トイレ用砂及びペットシート)</p> <p>〈実績〉 会員活動 ○獣医師5名 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ○町動物愛護会員9名 飼い主のいない犬猫の保護・一時預かり等</p> <p>飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 犬 検便フィラリア検査件数 3件 犬 寄生虫駆除件数 4件 猫 検便・寄生虫駆除件数 52件 猫 エイズ白血病検査件数 23件 猫 3種混合ワクチン件数 37件 その他 インターフェロン 14件</p> <p>飼い主のいない犬猫保護頭数 ○犬5頭、猫67頭 計72頭 内訳 犬:譲渡3 返還1 指導セ1 猫:譲渡62 保護中3 指導セ2 *4/4時点 指導センターに収容された3頭のうち、犬は譲渡。猫は死亡1、収容中1 ※町を通さず指導センターに収容されたMダックスが1匹近いうちに譲渡</p> <p>・飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成 猫オス 2件 猫メス 1件 ・県の補助事業活用 6地区 65件 内訳 オス30件 メス35件</p>	
2-1	取手市動物愛護協議会	犬猫殺処分を無くす講演会	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 犬猫の保護活動を実行している著名人を招いて講演して頂き、市民の動物愛護への関心を高め、もって犬猫殺処分ゼロの実現を目指す。</p> <p>2 猫に対する取組 猫譲渡会を開催し、猫の殺処分の減少に資する。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 犬猫保護活動を実践している著名人を招いて講演会を開催する。</p> <p>2 猫に対する取組 市内で活動している動物愛護団体が毎月市役所敷地にて犬猫譲渡会を開催しています。11月を目途に本協議会と共催し、猫の里親を探すことにより猫の収容頭数の減少に資する。</p>	<p>公益財団法人動物環境・福祉財団Eva理事長 杉本彩氏を講師に迎え、「人と動物がしあわせに共生できる社会を目指して」と題した講演会を開催し、会場のコロナ感染症対策による座席数制限の上限である140名の入場があり、アンケート結果も非常に好評な結果となりました。また、後日、取手市広報紙内の「市長コラム」にも取り上げられるなど、動物愛護、動物福祉への関心が高まりました。</p>	
2-2			<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 犬猫殺処分ゼロを目指す内容の小冊子を作成し、市内小中学校の児童・生徒に対し配布する。</p> <p>2 猫に対する取組 猫譲渡会を開催し、猫の殺処分の減少に資する</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 動物愛護に関する内容の小冊子を作成して市内の児童・生徒に配布し、若年層からの動物愛護への関心を高める。</p> <p>2 猫に対する取組 市内で活動している動物愛護団体が毎月市役所敷地にて犬猫譲渡会を開催しています。11月を目途に本協議会と共催し、猫の里親を探すことにより猫の収容頭数の減少に資する。</p>		
3	守谷市動物愛護協議会	守谷市内犬猫支援事業	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 飼い主に捨てられた犬・猫などの不幸な動物の現状を知り、その解決方法を生徒自身が考えることを通して動物を飼うことの責任の重さを学び、命を大切にすることを育むことを目的としています。</p> <p>2 猫に対する取組 守谷市役所に収容され、譲渡および里親サポーター(保護先)へ引き渡された飼い主不明の犬猫の繁殖制限を確実なものとし、また、里親サポーターの手術費用負担を軽減することを目的とする。</p> <p>3 その他の取組 (1)市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に対する取組 守谷市内の負傷・衰弱猫を保護・治療してくれる市民の金銭負担を軽減する。 (2)市内ペット防災に関する取組 災害時の犬・猫の置き去りや飼い主不明の犬・猫を低減するために同伴避難を前提としたペット避難所の設置、また避難所内の避難動物の管理ルールを定めて安全確保を目的とします。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 市内小・中学校対象に「命の授業」の開催 パワーポイント資料を使い茨城県の殺処分の現状、殺処分ゼロを目指す取り組み、TNR活動等を紹介する。さらに、実際に保護犬を連れていき、しつけの指導方法やふれあい体験・ゲーム形式の授業などを通して命の大切さを学んでもらい、家に帰って親御さんにも命の大切さを伝えてもらう。</p> <p>2 猫に対する取組 ・収容期限7日を超えた犬猫については、里親サポーターに保護していただき譲渡を目指す取り組みをしている。譲渡前に保護犬猫に対して不妊去勢手術を実施する場合、里親サポーターが手術費用を負担することとなるため、不妊去勢手術費用の一部助成(オス5,000円、メス10,000円)することで里親サポーターの金銭的負担を軽減する。</p> <p>3 その他の取組 (1)市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に対する取組 ・守谷市役所では負傷・衰弱した成猫を引き受けていないため、これらの猫の保護は善意の市民によるものとなっている。骨折や衰弱、交通事故、トラパサミによる負傷など把握しているだけでも毎年2~4件はあり、いづれも10万~20万円と高額な治療費を市民が負担している。 市内動物病院に情報提供してもらい、飼い主不明の負傷・衰弱猫に高額医療費がかかった場合に、医療費の一部負担をする。(5万円以上で1万円、10万円以上で2万円の助成) ・市役所収容犬猫について医療的措置が必要な場合、市内の病院に診察・治療をお願いすることがあるが、医療費は全て病院負担になっている。毎年2~3件。医療費の一部をお支払する。(1頭につき上限1万円)</p> <p>(2)市内ペット防災に関する取組 ・ペット防災ステッカーを作成し、災害時に自宅内にペットの所在の有無が分かるようにする。 ・ペット防災手帳を作成。同伴避難や避難所内のルールなどを周知し、ペットの詳細などを事前に記入し災害時に役立つような手帳を作成する。</p>	<p>1)動物愛護に関する啓発等の取組 <内容> ・市内小・中学校対象に「命の授業」の開催する予定であったが、コロナ感染予防のため断念せざるを得なかった。 ・11/6、守谷市市民交流プラザ市民ギャラリーにて開催された「犬といっしょに読書~今西乃子氏の『命の授業』~」(主催:市民活動支援センター)にて、開会のあいさつ、啓発チラシの配布、および、動物愛護関連ポスター(守谷市および茨城県の殺処分ゼロに向けての取組等)の展示を行った。 ・11/10、守谷市立御所ヶ丘小学校にて開催された、今西乃子氏の『命の授業』を見学した。小学校低学年向け、小学校高学年(一般)向けの2部開催のため、対象年齢による伝え方の違いを知り、今後の「命の授業」開催に向けてとても参考になった。</p> <p>2)市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組 <内容> ・市役所から譲渡された犬・子猫、および、収容期限7日を超え里親サポーターに保護された犬猫の不妊去勢手術費用の一部を助成(オス5,000円、メス10,000円)した。 市役所からの譲渡子猫総数45頭のうち、申請があったのは26頭(オス13頭、メス13頭)であった。(助成金額:195,000円=5,000円×13頭+10,000円×13頭)</p> <p>3)市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に関する取組 <内容> ・飼い主不明の負傷衰弱猫の診察・治療に対して、市民が高額医療費を負担した場合に、医療費の一部を助成した。(5万円以上で1万円助成、10万円以上で2万円助成) 申請があったのは、1万円×2件であった。 ・市役所収容犬猫の診察・治療を、市役所の依頼を受けて市内動物病院が請け負った場合、医療費の一部をお支払した。 今年度は、1件当たり(子猫は1腹当たり)5,000円を動物病院へ支払い、25,000円=5,000円×5件の医療費支払いとなった。(年度末の予算残金を件数で割って算出。)</p>	

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
					・同伴避難所の防災訓練の実施 人員・ケージの配置や実際の受け入れ体制の流れの確認などを行う。	4)市内ペット防災に関する取組 <内容> ・同伴避難や避難所内のルール等を周知し、ペットの情報を記入しておくペット防災手帳を2000部作成し、市の施設、市内動物病院11か所、ペットホテル、トリミングサロンなどに置かせてもらい、市民に無料配布した。 ・同伴避難所(もりや学びの里)にて防災訓練を実施する予定であったが、コロナ感染防止のため中止となった。
	4	常総市動物愛護協議会	常総市における迷い犬の保護、野良猫の不妊去勢手術、譲渡会の開催	<p>1 動物愛護の関する啓発等の取組 市民へ向け適正飼養に関する相談を受け付け、啓発を図る。</p> <p>2 猫に対する取組 (1) 野良猫の不妊去勢手術支援 (2) 保護猫の譲渡 (3) 多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助</p> <p>3 その他の取組 (1) 迷い犬の保護 (2) 譲渡会の開催</p>	<p>1 動物愛護の関する啓発等の取組 常総市動物愛護協議会主催の犬猫譲渡会の中で、里親探しの他にも適正飼養に関する相談を受け付け、啓発活動も行う。</p> <p>2 猫に対する取組 (1) 野良猫の不妊去勢手術支援 常総市で市民から猫の保護相談があった場合に、常総市動物愛護協議会の現状では猫は保護できる現状にないため、市民にTNR活動を説明し理解してもらったうえで、常総市動物愛護協議会会員が市民と協働しそれ以上繁殖しないようTNR活動を行う。 (2) 保護猫の譲渡 毎月1回、第一日曜日に、常総市動物愛護協議会主催の犬猫譲渡会を開催する。 (3) 多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 多頭飼育崩壊やネグレクトと思われる飼い主への指導と、必要な場合には清掃や里親探し等の援助を行う。</p> <p>3 その他の取組 (1) 迷い犬の保護 常総市で市民から犬の保護相談があった場合に、内容を精査したうえで常総市動物愛護協議会会員が保護し、動物愛護協議会の活動費より初期医療(ワクチン・検便・不妊手術)を実施し、その後常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しにつなげる。 (2) 譲渡会の開催 毎月1回、第一日曜日に、常総市動物愛護協議会主催の犬猫譲渡会を開催する。</p>	<p><内容> (1) 野良猫の不妊去勢手術支援 常総市で市民から猫の保護相談があった場合に、常総市動物愛護協議会の現状では猫は保護できる現状にないため、市民にTNR活動を説明し理解してもらったうえで、常総市動物愛護協議会会員が市民と協働しそれ以上繁殖しないようTNR活動を行った。 (2) 保護犬猫の譲渡 犬猫譲渡会については、新型コロナまん延に伴い中止。 市民から犬猫の保護相談があった場合、内容を精査したうえで常総市動物愛護協議会会員が保護し、同協議会の活動費より初期医療(ワクチン、検便、不妊手術等)を実施し、その後、常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しを行った。 (3) 適正飼養に関する相談と啓発 犬猫譲渡会については、新型コロナまん延に伴い中止。 個別に相談があった場合、各ボランティアで里親探しや適正飼養に関する相談を受け付けし、啓発活動を実施。 (4) 多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 多頭飼育崩壊やネグレクトと思われる飼い主への指導と、必要な場合には清掃や里親探し等の援助を行った。</p>